



新着図書紹介

自動車や家電に依存する経済成長が厳しい状況に陥るなかで、日本のモノづくりを主導してきた経済産業省も、「クール・ジャパン」を競争力の源泉とする新たな成長産業群を育成する時代を迎えた。国土交通省の成長戦略でも、観光は重要分野の一つに位置付けられている。しかし、肝心の観光立国を支えるはずのサービスとホスピタリティについて、日本での学術的な研究は遅れたままだ。本書『サービス&ホスピタリティ・マネジメント』(サービス&ホスピタリティ・マネジメント研究グループ著、徳江順一郎編著、産業能率大学出版部)は、現実



A5判 360ページ
定価 2,500円
産業能率大学出版部

と同時、その将来も展望している。実業界のプロフェッショナルと学術的に著名な研究者による執筆を通じて、実践面と理論面のバランスにも配慮した本書は、観光立国の推進へ投じられた貴重な一石だ。

小泉内閣の時代に「観光立国」が提唱されてから十年ほどがたち、地域観光振興への取り組みもすっかり定着してきたかに見える。しかし、プロジェクトデザイナーの古田秘馬氏は本書『物語のあるまちへ旅に出よう』(林大策著、リベラル社)で「自分の住む地域が誰に対してバリエーションがあるのかを理解しないまま、地域から発信しているケースは非常に多い」と指摘。「まちの魅力を発掘するためには、外からの目が必要」と各地で異口同音に聞かされた著者も、西洋史学者・木村尚三郎氏の「よそ者を拒む土地は老いさらばえる」という言葉を用いる。「伝統・文化」「銘酒」「逸品」に会いにいく旅と「アート」「プログラム」を楽しむ旅で紹介されるのは、美濃市や真狩村など全国十数カ所だが、著者は「日本中の地域が繋がりを、刺激し合い、ひとつでも多くの素晴らしいまちが誕生すること」を願ってやまない。



A5判変形 144ページ
定価 1,400円
リベラル社

てやまない。(挑全)

利用状況

ベストリーダー (2012年9~11月)

当図書館への来館者によく閲覧されている本を紹介。

【旅行ガイドブック部門】

海外旅行では、

- ・『地球の歩き方ドイツ2012-13』(ダイヤモンド・ビッグ社)
- ・『まっぷるフランス2012』(昭文社)
- ・『地球の歩き方インドネシア2012-13』(ダイヤモンド・ビッグ社)

国内旅行では、

- ・『るるぶ山梨2013』(JTBパブリッシング)

【一般読み物部門】

- ・『ガイドブックにぞったい載らない海外バック旅行の選び方・歩き方』(佐藤治彦著、アスペクト)
- ・『LCCで行くぶらり格安世界の旅』(下川裕治著、PHP研究所)
- ・『JTBグループ100年史 1912~2012』(ジェイティービー)

館長のつぶやき

クラウドでの図書館システム導入を考えている。サーバーを持たずメンテナンスフリーで安心を買える。ネット情報の世界はどんどん進んでいる。検索した本がネットで読める、いや現にお金を払えばそれはできるし、著作権の問題がもっと整理されれば、今以上にネット図書館はどんどん普及するかもしれない。そういったことが想定できる一方、実際の書物を手に取って、一度にたくさんの本をばらばらめくることができる、豊かで幸福なひとときをもたらしてくれる図書館もなくならないうら、とも思う。

特別展示のご案内

LCCで楽しむ新しい空の旅

2013年1月7日(月)~2013年2月28日(木)

低コスト・格安運賃のビジネスモデルで運航するLCC(ローコストキャリア:格安航空会社)の普及は“誰でも”“気軽に”空の旅を楽しめる時代の幕開けを意味している。ピーチ・アビエーション、ジェットスター・ジャパン、エアアジア・ジャパンの国内LCC3社が立て続けに就航した2012年は「LCC元年」と呼ばれているが、各社は今後も路線拡大を計画しており、LCCはより一層身近な“旅の選択肢”となっていくことだろう。

そこで本展では、「LCCで楽しむ新しい空の旅」をキーワードに、LCCを使った旅の楽しみ方、LCCのビジネスモデルを支える仕組み等、さまざまな切り口から選んだ図書・雑誌を展示しています(『LCCの使いかた 得する格安航空旅行』(イカロス出版)、『LCCが拓く航空市場 格安航空会社の成長戦略』(杉山純子著、成山堂書店)、『羽田空港から行く週末海外!』(緒方信一郎著、講談社)等)。ぜひ当館を訪れて、LCCを使った新しい旅の楽しみ方を見つけてください。

*詳細は、
ホームページ<http://www.jtb.or.jp/> 旅の図書館・インフォメーションへ